ＰＴＡ研修旅行

倉元製作所

教養部長　岩渕　昌隆（米山支部）

今年度の研修先は、岩手県花巻市の宮沢賢治ミュージアムと、宮城県栗原市に本社のある倉元製作所に行ってきました。

まずは、宮沢賢治ミュージアムですが、リニューアルされてとても見やすく、年代別に展示されており、関連づけて詳しく説明されて、宮沢賢治の直筆の原稿も展示されていました。その原稿を見てみますと、変に、ホッとした面もありました。それは、文字でした。こう言うと申し訳ありませんが、私と変わりもない文字だったことでした。そのほかの展示物としては、映像で郷土芸能など、見たい場面を選び見ることが出来る事は、他のこのような記念館には、少ないと感じました。それにしても、有意義な時間を過ごせました。その思いを残したまま、志戸平温泉にて昼食と温泉を頂きゆったりとした時間を過ごした後に、帰路に向かいながら、栗原市の倉元製作所本社に来社しました。会社概要の説明を社長様より直接お話を頂けると聞き、参加頂いた皆さんと共にビックリと緊張しましたが、そこは社長様が緊張をほぐそうと気を遣いながらお話を頂きました。

それから工場内を見学させて頂きましたが、液晶パネルの重要な部品を精密にそして確実に生産されているところを見学しました。隣市にこれだけの技術を持って国内だけでなく、海外とも研究開発、生産している企業があるとは、私の勉強不足としか言えません。痛感しました。

多少、帰路に時間はオーバーしましたが、とても楽しく有意義な研修旅行に成りました。

ＰＴＡ会員皆様も、日程がとれましたら、一度ご参加して見ませんか。

とても楽しく、興味・関心の有無もありますが、お気軽にご参加ください。

宮沢賢治ミュージアム

おっかけ奮闘記

橋沼美由紀（中田支部）

「おっ母、俺もっと強くなりたいから食事の管理お願いします。」思い起こせばその言葉を聞いた時から私達夫婦の追っかけが始まったのだと思います。息子の『本気』を感じた瞬間でもありました。その日から私は、息子の足を引っ張らない様に、身体と筋肉をつくる食事を作っています。

最後の中総体の一カ月前、思いもよらないアクシデントが起こってしまいました。腰を疲労骨折してしまったのです。しかし、親の心配は裏腹に、病院の先生が驚くほどの驚異的な回復力で大会に出場。中田中学校最後（廃部）のカヌー部は有終の美を飾ることができました。

高校生になりカヌー部に入部しましたが、半分は親の希望です。男子部員一人、そして古傷との付き合いは並たいていな精神力では超えられないと、感じた日々が何カ月も続きました。「腰が痛い。腕が上がらない。」箸を持つ手は痙攣が止まらない。痛みと悔しさから自暴自棄になったり、男泣きしたり、そんな姿を見たくない、楽にしてあげたい。何度も飲み込んだ言葉。「もう辞めていいんだよ。」

でも、息子にはありがたいことにたくさんの支えてくれる人達がいます。整骨院の先生、中学時代のコーチ、メンタル面をサポートしてくれる日本代表カヌー選手、そして、何より親身になって考えてくれる担任と顧問の先生。皆さんの支えで万全に近いコンディションで高校総体と高校総体東北大会に挑むことができました。自己ベストタイム更新。「東北大会楽しかった」のコメントを見ただけで幸せです。そして今回の大会では一人ではなく皆の支えのもと漕げているのを理解しているように見えました。

親として残り少ない追っかけ生活を大切に、悔いのないように全力で応援していきたいと思います。カヌー部の保護者の皆さん一緒に岸辺を走り応援しましょう！

阿部新太郎（迫支部）

息子の野球の追っかけも八年目になりました。高校生になれば、口も手も出せず、試合を見て感動するだけ、こんなに楽で良いのでしょうか。「スポ少に入れると大変でしょう。」たしかに大変ですが、その苦労が何十倍もの感動にかわって帰ってきました。

大変幸せなことに六月に、東北大会に行ってきました。甲子園常連校にまじり堂々とした子供たちに感動と感謝でいっぱいでした。東北大会出場にあたり、皆様から頂きました応援に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

私の息子は人数の少ないチームにしか所属したことがないので先輩が卒業すると試合に出られました。登米高野球部に入り初めて「背番号もらえる」「背番号をもらった」と背番号の重みを経験しました。先日、夏の大会に向けて背番号を先生から子供たちにわたす場面に立ち合えました。最後の夏、惜しくも背番号をもらえなかった仲間を同級生が囲み話し合い、そして涙する姿、青春していました。

このような場面に立ち合えたのも追っかけのおかげです。追っかけは、子供のためとか言いながら自分が楽しむために行動しているだけのことです。みなさんも追っかけしませんか。